



## 歯学部創設30周年



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます。

## 歯科病院創設30周年を迎えるにあたり

昭和大学歯科病院長 川和 忠治

昭和大学歯科病院は、昭和52年6月末に開院し、名実ともに目覚ましい発展を遂げ、ここに開設30周年の記念すべき年を迎えることが出来ました。以来、本院は患者の立場に立った医療の提供と社会から求められる歯科医師の育成を教職員各位が認識して日常の臨床に取り組んできたと自負しております。



平成12年に制定された昭和大学歯学部の教育理念にもそのことが盛り込まれています。以下にその教育理念を記します。

1. 歯科医療を地域・社会との関係において、患者やその家族との信頼関係を重視しながらチーム医療の一員として活躍できる社会性のある歯科医師
2. 口腔領域の疾患を全身との関わりにおいて把握することができる歯科医師
3. 歯科医療に関する問題を正しく解決することができ、生涯にわたって学習し続ける習慣を身につけた歯科医師

平成4年に藤が丘病院、平成8年に烏山病院、平成9年に昭和大学病院に歯科の開設ができました。このことが上記の理念を推進することに一役買っていると言えるのではないでしょうか。さらには、10年後を目処に昭和大学の旗の台に歯科病院の移転が計画されており、その実現がなされたとき、一段と高いレベルでの歯学部の教育理念が遂行されることとなるでしょう。また、「次世代を担う歯科医師」の育成についても、教育病院として今後も継続して力を傾注しなければならない目標であることは言を待たないところです。

この間に、臨床系講座に激震が走った最大の出来事といえば、平成16年度に「歯科病院診療科再編」が実施されたことではないでしょうか。開設時の定員は13名でしたが、第4次削減により6名定員となり、これと同時に講座再編と新設講座および新設診療科が新設されました。このことにより専門外来が新設できたことは評価できることだと思います。教員の削減と反比例するかのよう教育に対する負担は増大の一途を辿っていることも事実です。

歯科病院は開設30周年を迎えることができました

が、これを契機として社会情勢や歯科医療を取り巻く環境の変化に対応した診療内容の見直し等が必要です。これらを実行するためには、昭和大学教職員の皆様のご理解、ご支援を切にお願いする次第です。

## 平成19年度昭和大学歯科病院臨床研修 歯科医採用試験

総合診療歯科 科長 長谷川 篤司

平成19年度臨床研修医の採用試験が9月9日(土)に実施されました。臨床研修必修化2年目を迎え、臨床研修施設群方式のプログラムA(募集定員96名)に加えて単独型臨床研修施設方式のプログラムB(募集定員4名)が新設され、合計100名の研修医募集に対して受験者数は287名(新卒246名、既卒41名)と概ね予想通りで、このうち昭和大学出身者は116名(新卒108名、既卒8名)でした。

試験には面接試験と筆記試験が採用され、面接試験には各教室より選任された24名の面接委員にご協力いただきました。また、本年度から採用された筆記試験は国家試験形式の5者択一問題で、学科試験50題と一般常識問題20題が出題されました。

受験者多数のため、受験生には旗の台校舎内の2会場(1号館:面接試験会場と4号館:筆記試験会場)を巡回して受験していただきましたが、限られた試験時間内で意欲のある研修希望者、マナーの良い研修希望者を選出するために、待機時間や2会場間の移動時も行動観察の評価対象とすることを試験前に告知したこともあり、受験生はいずれも神妙な面持ちで約2時間半の試験を過ごしました。なお、採用試験実施企画には医学教育推進センターと歯科病院管理課の多大なるご助力をいただきましたことを付記いたします。



## 第2, 3回歯学部進学相談会報告

入試広報委員長 山田 庄司

本学で開催される進学相談会(オープンキャンパス)には、4学部合同の富士吉田キャンパス見学会(本年度は6月3日と8月25日の2回)と大学祭期間中に旗の台で行われる4学部合同進学相談会(本年度は10月14・15日の2回)があります。そのほかに学部ごとに開催される進学相談会があり、歯学部では歯科病院がある洗足キャンパスで2回(本年度は7月29日と8月26日)と旗の台キャンパスで1回(本年度は9月23日)行われます。

洗足キャンパスでの歯学部進学相談会では、午後1時半から臨床講堂で約1時間の全体説明会(「歯学部教育の特色」「卒後の進路」「富士吉田での学生生活」「平成18年度歯学部入学試験(試験の概要及び試験の傾向と対策など)」)があり、続いて約1時間の歯科病院内の施設見学、最後に臨床講堂で個別相談が1時間ほど行われます。本年度の洗足キャンパスの歯学部進学相談会には合計で176名の高校生(昨年度164名)が参加しました。

旗の台キャンパスでの歯学部進学相談会では、歯科病院の施設見学の代わりに模擬授業が行われます。本年度は向井教授の「外れやすい義歯から歯・口の健康を考える」と題する模擬授業が行われ、66名の高校生(昨年度は50名)が参加しました。

本年度の進学相談会に参加した歯学部を希望している高校生数は、富士吉田キャンパス見学会を含めて、昨年度よりもやや増加傾向にあり、本年度も歯学部志願者は総数にして、およそ1000名程度が予想されます。

## 歯学教育者のためのワークショップ報告

ワークショップ委員長 菅沼 岳史

第11回昭和大学歯学教育者のためのワークショップが、8月18日(金)から20日(日)に歯学部教育委員会の主催で理事長、学長、宮崎学部長、川和病院院長、佐藤教育委員長および榎副院長の出席のもと三島市の東レ総合研修センターにて開催されました。

今回は、統合科目のより良い姿の模索と統合科目構築のノウハウの確立をテーマとして、ベーシック2グループ、アドバンスおよびコーディネータの4グループに別れて行われました。ベーシックグループは、ワークショップ未経験者の若手教員を中心に構成され、統合科目のひとつである臨床実習の予備実習を題材として3年ぶりにカリキュラムプランニングの習得を行いました。アドバンスグループは、口腔診察診断技法の担当教員で構成され、この科目の目標を明確にし、方略および評価方法の見直しを行いました。また、コーディネータグループは、統合科目のコーディネータと4大学交流の北海道医療大学から参加された齊藤

先生で構成され、現在実施されているいくつかの統合科目の内容の見直しを行いました。

最終日には、口腔診察診断技法で講義されている「POSに基づく診療録の記載」について、前顎口腔疾患制御外科学助教授で現在武蔵野赤十字病院特殊歯科口腔外科部長の道脇先生にご講演をいただきました。各グループそれぞれの持ち味を生かして作成された今回のプロダクトが、統合科目の充実と発展に寄与することができれば幸いです。



## 薬学部ワークショップ報告

教育委員長 佐藤 裕二

8月23-24日に1泊2日で薬学部ワークショップが厚木のアンリツの研修センターで行われました。テーマは、6年制薬学教育の理想像、6年制での進級のあり方、長期薬局実務実習でした。薬学部の教員には危機感があり、講師以上全員(2名の海外出張者以外)が出席されました。理事長からの厳しいエールがあり、医学教育推進センターからの「医学部の実態の紹介」がありました。

私からは「歯学部教育の特徴」をお話ししました。歯学部での進級試験について、非常に興味を持たれたようで、導入することも検討されていました。またD6チューター制度にも興味を持たれていました。

私が興味深かったのは、1年生と薬学全教員との懇談会の開催案が出されたことと、医学部学生による自主的卒試対策(グループ学習など)が行われていることでした。今後、ますます4学部の連携を深めてゆく必要性を実感したワークショップでした。





## D4海外研修体験（大連医科大学）

歯学部4年 藤田 美佐子

大連医科大学の研修に参加した2週間（7月24日－8月4日）の実習内容は、私にとって初めての実践的な病院実習でした。それとともに様々な国々からの留学生が集まる寮生活は私にとって大きな人生の転機となりました。

日本と中国の病院の相違点は、

1. 日本では病院内での使用を禁止されている携帯電話を病院内で使用可能なこと（患者さんとのコミュニケーションの手段とのことでした。）
2. 患者自身が初診の際に2円でディスプレイの歯科器具（ミラー、探針、ピンセット）を購入すること（感染予防のため優れていると思いました。）
3. 診療体制が医療者と患者さんの信頼関係に基づいているので、医療事故があっても裁判になることは少ないとのことでした。
4. 歯学部学士修業期間は5年間、マスターコースは3年間、2年間の博士課程といった教育制度でした。



中国と日本の関係は首相の靖国参拝の是非論など歴史的問題が残っている今日、現実の中国の人々の心の中はどうだろう？

という、疑問と不安をもって中国大陸へ行きました。そんな心配もよそに、中国で出会った先生・看護師さん・学生との出会いは心通う素晴らしいものでした。医療者は親日的でむしろ日本の医学・医療に対する憧れを率直に抱いていることを知りました。また、医療環境や医療レベルは決して高くはないが、常に目線を患者さんの立場にあわせて真に患者さんのために行なおうとする医療の原点を垣間見ました。このような経験が将来の糧となったことは確かなことで、病者や弱者に対して思いやり・向上心のある歯科医師になりたいと思います。

## D4海外研修体験(USC:南カリフォルニア大学)

歯学部4年 平林 あすか

8月16－27日の11日間というとても短い期間でしたが、Dr. Slavkin, Dr. Sekiguchiをはじめとする先生方が日程を組んで下さったお陰で、非常に内容の濃い、充実したプログラムを体験しました。

USCのDental Schoolが夏休みだったため、実際にPBL形式の授業に参加できませんでしたが、大学の歯科病院や様々な施設を見学させていただきました。

ここで最初に感じたことはアメリカと日本との社会的背景の違いです。私達が見学した施設のうち TCDC, Queen's Care はホームレスや治療費を支払えない人のために、寄付とボランティアで成り立っている病院でした。これらの病院を見学してアメリカのボランティア精神の高さを感じると同時に、ホームレスの数の多さや、貧富の差、保険制度が行き届いていないなど、アメリカの社会的問題にも直面させられました。次に、アメリカの学生の意識の高さと積極的な姿勢に驚かされました。アメリカでは、大学（4年間）を卒業後、Dental School（4年間）に進学という8年間のプログラムをとっており、Dental Schoolでは1年次から実際に臨床に出て実習を行う臨床中心のカリキュラムであることに驚きました。

今回の研修を通して、アメリカの先生方や学生と交流でき、また向こうの文化や教育に直に触れたことで多くのことを感じ、また視野を広げることができました。このような機会を与えてくださった先生方に感謝の意を表するとともに、今後この経験を生かしてより良い歯科医師を目指し、努力していきたいと思えます。



## 昭和大学公開講座のお知らせ

広報委員長 五十嵐 武

### ○「第33回 旗の台公開講座」

日時:平成18年10月28日(土), 13:30~15:00

場所:旗の台校舎 4号館 6階 600号室

(第一講演)

演題:【口の歴史－全身から見た口とは－】

講師:昭和大学歯学部教授 中村 雅典

(口腔解剖学)

### ○「第9回 歯科病院公開講座」

日時:平成18年10月28日(土), 13:00~15:20

場所:歯科病院 6階 第2臨床講堂

(第一講演)

演題:【明るく、楽しく、美しく】

講師:昭和大学歯学部助教授 真鍋 厚史

(美容歯科)

(第二講演)

演題:【歯ぐきの美しさをとりもどす歯周外科】

講師:昭和大学歯学部教授 宮下 元 (歯周病学)

(講演終了後, 15:30~)

歯科衛生士による口腔清掃の指導 (希望者のみ)

## 歯学部1年生で「PBL」始まる

PBL 委員長 中村 雅典

本年度から富士吉田教育部はこれまでの医歯薬3学部に加え、保健医療学部も加わり4学部体制となりました。それに伴い、これまでの物理、化学、生物の実習に加え、新たに学部主導の実習を開始することとなりました。期間は10月11日から毎週水曜日午後計12回となります。富士吉田キャンパスの実習環境(特に水回り)を考慮し、歯学部ではPBL・チュートリアル実習(演習)を行うことにしました。歯学部では2年次、3年次でPBL・チュートリアルを行ってきましたが、1年次から導入することで、学生が能動的学習の基本を身につけることが出来ればと思っています。

来年度からは富士吉田教育部で4学部横断PBL・チュートリアルが開始されますし、夏の昭和大学医学教育者ワークショップでは、この4学部横断PBL・チュートリアルを各学年でも行うという案が出され、その方向で作業が開始されつつあり、医療系学部横断型PBL・チュートリアルが昭和大学の教育の特色として現実に動こうとしています。

## 歯学部3年生で「体の病気 PBL」始まる

総合内科 科長 井上 紳

本年度から歯学部3年の「からだの病気Ⅱ」にPBLが導入されました。口腔内症状と全身疾患の関係を学ぶ機会になればと考えています。

一回目のPBLテーマは「口のかわき」です。口の渇きには、水分喪失または塩分摂取過多による「のどの渇き」と、シェーグレン症候群に代表される「唾液分泌障害」があります。このほかに鼻づまり呼吸や精神的ストレス、ある種の薬剤なども影響します。糖尿病は浸透圧利尿による口渇のほか唾液分泌の減少も報告されていますし、更年期以降の女性の口渇感には「うつ」の影響も考えられます。一方で、抗うつ剤や抗不安剤は唾液分泌を減少させるため、治療開始前の唾液分泌量の測定が必要です。

口渇感を訴える患者さんについて、症状のとらえ方、想定される病気、必要な検査と診断手順についてPBLを通じて学生さんに学んでいただきたいと思います。

## 診療統計 (平成18年8月分)

医事課 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日 平均	前年1日 平均
外来患者	18,505	685.4	707.8	709.0
入院患者	533	17.2	14.0	17.6

## 認定医・専門医の取得

広報委員(歯周病学講座) 小林 誠

口腔外科学会専門医:

・宇山理紗講師(口腔リハビリテーション科)

## 行事予定

広報委員長 五十嵐 武

10月2-6日:歯学部1年生早期体験実習

10月13-15日:旗が岡祭・いぶき祭

10月14, 15日(土, 日):昭和大学4学部

進学相談会(旗の台)

10月28日(土):第33回 旗の台公開講座

10月28日(土):第9回 歯科病院公開講座

11月4日(土):昭和大学歯学部創立30周年

記念講演・記念式典・祝賀会

11月15日(水):昭和大学創立記念日

11月25日(土):父兄会秋季部会(旗の台)

11月28日(火)-1月16日(火):歯学部3年生

歯科病院見学実習(全6日間)

## 編集後記

広報委員(歯周病学講座) 小林 誠

先日、ある大手メーカーで役員をされている方との雑談の中で、「企業の生き残り戦略において最も重要視していることは？」という私の問い掛けに、その方は「10年、20年先を見据えた場合、やはり優秀な人材の育成と確保で、またそのための方策は、各人の向上心を惹起・維持させる環境(人、場所、時間)の提供と、正当で客観的な評価です」と即答されました。

実際、この方策の前半は大学における卒前・卒後(研修医・大学院・医局員)教育においても解決すべき重要な要件ですが、刻々と変化する社会情勢や経済的理由から容易でないことも事実です。特に卒後における、「将来大学で指導的な立場に立つべき優秀な人材の育成と確保」という点で鑑みると、そのための「ゆとり」が次第に失われてきているのではないかと危惧されます。

若い教室員が「大学人」として、優れた研究の遂行や卓越した臨床スキルの習得を行おうとする意欲をスポイルすることのない環境と効率的且つ良質な指導を、今後如何に提供するかに思いを巡らせている今日この頃です。